

## (公社) いわき青年会議所 副理事長 意見書 (案)

副理事長 草野 雄一

1 いわき市は、かつて本州最大の炭鉱のまちとして国のエネルギー産業を支え、国の発展  
2 とともに新産業都市として強い地方都市を目指し、約50年前の合併によって誕生しまし  
3 た。エネルギー革命による主幹産業の衰退や、東日本大震災などの困難に見舞われながら  
4 も、首都圏に近く、温暖で変化に富んだ地形を活かしたまちづくりに取り組んできた実績  
5 を活用することで「たったひとつの誇りを持てるいわき」を創造していく必要があります。  
6 まずは、全国的に少子高齢化や生産年齢人口の減少等の時代背景がある中、いわき市に  
7 おいても例外ではなく、地域間での人の取り合いやお金の取り合いといった、いわば現代  
8 版の戦国時代に突入していると言っても過言ではなく、そういった縮小傾向にある現状を  
9 認識したうえでこれからのまちづくりを考え、行動を起こしていかなければなりません。  
10 いわき市の人口減少について短期的に見た場合、減少傾向を食い止めることは現実的では  
11 ないと考えますが、いわき市よりも人口が少なくても活気にあふれたまちもあります。よ  
12 り深刻な問題は、若者のいわき市外への流出などによる生産年齢人口の減少と、高齢化が  
13 進むことで見られる社会保障費等の増加による財政圧迫だと考えております。今後、地域  
14 経済を持続可能な形で発展させていくためには、いわき市の持つソーシャルストックを最  
15 大限活用することで市外からの貨幣を稼ぎ、稼いだ貨幣をいわき市内で循環させること、  
16 そして健康でたくましい市民を増やすことで生産性の向上を図ること、これまでの在り方  
17 に固執することなく新しい価値観を模索することで産業を進化させていくことが重要です。  
18 いわきに住む方々がソーシャルストックを活かした市外からの貨幣獲得への可能性を感じ、  
19 心身ともに健康で活力にある市民によって産業を独自のスタイルで発展させていくこ  
20 とで、いわき市の経済の好循環が生まれ、活気に溢れた持続可能ないわきへと進化します。